

受験校を選ぶ覚悟

2ヶ月前のセミナー通信で「高校の選び方」についてアドバイスをさせていただきました。その際、林拓弥君のメッセージを紹介し、私も“自分自身の可能性にこだわれ”と檄をとばしましたが、その後の中3生には多かれ少なかれ意識の変化があったように感じられます。全県模試第4回の結果を返却する際一人一人と面談をしましたが、以前よりもはっきりと「〇〇高校に行きたいです。」と自分の意志を伝えてくる塾生が明らかに増えました。もちろん、時期的なことを考えてもそうでなければ困るのですが、ここで本当に大切なことは、“親から言われたから”ではなく、“自分が本当にそこに行きたいから目指す”、という姿勢なのです。

保護者の皆様、高校受験は、それまで特に何も考えることなく周りの皆と同じ道を歩いてきた子どもが、生まれて初めて自分で自分の進む道を決めなくてはならない一大イベントです。子どもの成長のためには絶対にこの受験は必要であると私は考えます。自分で決めて、その実現のために自分で努力し、その結果は自分で責任をとる。その経験が大きく子どもを成長させるのです。親に言われてやったことならば、失敗しても親のせいにして逃げることができます。成功したならば、“やはり親の言うとおりにやっていたら間違いはないんだ”と、自立の芽をつむことにつながりかねません。大切なことは、“自分で決めて、その結果は自分で責任をとる”という覚悟を持たせることです。

塾生諸君、今から3ヶ月後、無事に合格出来たなら、それは自分が頑張ったからです。神様のおかげでも、ましてや塾のおかげでもありません。自分で決めて自分でやり通したのです。それは一生の自信になります。また逆に、残念ながら受験に失敗してしまっても、これも自分の責任と受け止めましょう。足りなかったものが努力だったのか、度胸や集中力だったのか、冷静に現実を受け止めた上で、この経験を次に活かしていけるよう、気持ちを転換させなくてははいけません。間違っても親にあたりたり、進学先の高校でくさったりするべきではありません。そんなことをしては、未来に光は射しません。“この高校でトップになってやる”というくらいの気持ちを持って、その高校で精一杯頑張りましょう。

「〇〇高校に行きたいです。」と口で言うのは簡単ですが、そこにはこんな覚悟が必要なのです。だからこそ、受験校はよく考えて決めなくてははいけません。もちろん、親、学校の先生、私など、それぞれの立場からのアドバイスを受けることは必要です。それらをもとにして、将来のことまで見据えた上で、覚悟を持って最後は自分で受験校を決めていきましょう。

そこへの道筋は私のはっきり示します。最後の最後まで一緒に走る覚悟も私にはあります。